

## 〈プレスリリース〉

日本政府、ポリバル州カイカラ・デ・オリノコの女性救済支援協会（アンバル）を支援

2017年12月27日、在ベネズエラ日本国大使館に於いて、岡田憲治 在ベネズエラ・ポリバル共和国日本国大使と、ヌリィー・ペルニア 女性救済支援協会(アンバル)会長との間で、同協会の設備強化拡大計画の為の、日本政府の草の根・人間の安全の為の無償資金協力を通じた贈与契約の署名式が行われた。この贈与の合計金額は、44,220米ドルで、台所器具・機材、冷凍機、発電機等の購入に充てられる予定である。

ポリバル州のカイカラ・デ・オリノコの女性救済支援協会（アンバル）は、経済的に恵まれていない同地域の住民、特に若いシングルマザーや未成年女子を支援する目的で、1995年に設立された。このプロジェクトの目的は、ベーカリー、パストリー、製菓、美容師、一般的な工芸品製造及び縫製分野で短期的な職業訓練活動を通じて、ジェンダー暴力、性的虐待等の影響を受けている女性と未成年者の生活条件を改善することである。同協会は、このプロジェクトを通じて、年間100人の少女、青少年及び女性を支援する事が可能とし、間接的にはそれらの家族に関連した約1,000人のカイカラ・デ・オリノコの住民が受益者となる。

日本政府の草の根・人間の安全保障無償資金協力は、基本的なヘルスケア、基礎教育及び貧困緩和、その他の分野における開発プロジェクトを支援する目的を持った地方公共団体、非政府組織(NGO)、教育機関及び医療機関等に指向けられた無償資金協力である。日本政府は、1999年よりこの協力を続けてきており、今日までにベネズエラの53の団体及び組織等がこの協力を受け、その金額は3,71百万ドル以上に達している。



(了)